

需要暖冬で10.5%減の122万トにとどまる
輸入は65万トのうち米国が63%
～3月LPガス需給実績（5日集計）～

日本LPガス協会が26日にとりまとめた「LPガス需給統計」（5日集計）によると、3月のLPガス需要は前年同月比12.0%減の1,219千トとなった。供給は輸入が646千トの超低水準だったことから、在庫（一次基地在庫）は月間387千ト減の1,224千ト（法定備蓄量込み）となった。

1. <生産> 3月のLPガス生産は、石油精製分が前月比15千ト増、前年同月比14.2%減の145千ト、石油化学分が前月比5千ト増、前年同月比6.8%減の41千トとなった。2月の原油処理量が暦日数の関係や暖冬による灯油などの需要不振から低水準にとどまっていたことが3月のLPガス生産の増加につながったが、前年に比べると石油需要の低下を受けて原油処理量は3.4%減となったことから減少した。また、石油化学での生産もエチレン生産量が563千トの13.7%増となったものの、自家消費の増加などで前年比減となった。

2. <輸入> 輸入は米国での濃霧による積み遅れや中東産ガス国での在庫不足による積み遅れのほか、前月高水準輸入の反動減、暖冬による需要減や年度末在庫を低く抑えたい元売の意向もあり、スポット輸入が手控えられたことで記録的低水準となった。前月比560千ト減、前年同月比34.1%減の646千ト。なお、646千ト輸入のうち米国からの輸入が407千トと63.0%を占める。プロパンに限ると506千ト輸入のうち米国が370千トで73.1%となっている。

3. <総需要と一般用需要> 3月のLPガストータル需要は、プロパンが前年同月比12.5%減の963千ト、ブタンが同9.9%減の256千ト、合計で12.0%減の1,224千トにとどまった。このうち一般用需要は、プロパンが10.6%減の963千ト、ブタンが10.2%減の230千ト。暖冬が響いた。北日本が平年比1.5℃高、東日本が同1.8℃高、西日本が同1.2℃高。都市ガス需要も同様だからプロパンやブタンの原料用の受入れも低調だった。

4. <輸入船直納需要> 鉄鋼用は引き続き受入れゼロ。電力用受入れもなかった。化学原料用は九州でのブタン受入れが続いているが、3月はブタン26千ト。直納分受入れは前年同月比50.0%と半減した。

5. <在庫> 以上のような需給の結果、3月末の一次基地在庫は2月末比387千ト減の1,224千トとなった。昨年3月末比96.6%。うちランニング在庫は112千トで2月末比394千ト減、前年同月末比74.7%。法定備蓄量は1,112千トで前年同月末比99.6%。民間備蓄日数が50日分から40日分に軽減されたが横ばいが続いている。

3月のLPガス需給実績は次のとおり（単位・千トン、カッコ内は前年比%）。

	プロパン	ブタン	合計
月初在庫	1,104 (134.1)	507 (79.8)	1,611 (100.5)
ランニング分	330 (175.5)	176 (105.4)	506 (142.5)
法定備蓄	774	331	1,105
<供給>			
石油精製分生産	104 (95.4)	41 (68.3)	145 (85.8)
石油化学分生産	22 (91.7)	19 (95.0)	41 (93.2)
輸入	506 (56.4)	140 (166.7)	646 (65.9)
供給計	632 (61.4)	200 (122.0)	832 (69.7)
<出荷>			
一般用	963 (89.4)	230 (89.8)	1,193 (89.5)
鉄鋼用	0 (--)	0 (--)	0 (--)
化学原料用	0 (--)	26 (--)	26 (--)
電力用	0 (--)	0 (--)	0 (--)
輸入船直納計	0 (--)	26 (92.9)	26 (50.0)
出荷計	963 (87.5)	256 (90.1)	1,219 (88.0)
<在庫>			
月末在庫	773 (102.8)	451 (87.6)	1,224 (96.6)
ランニング分	55 (75.3)	57 (74.0)	112 (74.7)
法定備蓄	718	394	1,112

（注）在庫は一次基地在庫